



中途半端な LMS活用からの脱却！

BREAKAWAY FROM HALF-DONE LMS

LMSの効果を
最大化する秘訣とは？



LMSを使いこなせていますか？

ICTの活用が活発に行なわれる現代では、企業や行政のみならず
大学にも先進的な環境整備が求められています。

大学には「**学生が学習や活動を行ないやすい環境を作り、提供する**」使命があり、
 それを実現するためには、大学運営を効率化して学生へ提供するサービス品質を高める
 LMSツールの利用が一般的でしょう。

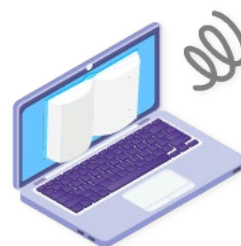
すでに多くの大学がLMSを導入していますが、残念ながら全学的に活用できている大学は
 一部に留まります。

大学にマッチしたLMSを導入し、それを有効活用できるかどうかは、**学生へ提供するサー
 ビス品質に強く影響**します。

遠隔授業の必要性や、学習教材・コンテンツの大幅増加など、大学を取り巻く環境の大きな
 変化は、ほとんどの方が実感しているでしょう。

各大学の特徴や優位性はあれど、学生の学習状況を適切に管理・情報提供を行ない、
大学から学生に質の高い教育を提供することはどの大学でも必須
 と言えるのではないのでしょうか。

適切なLMSを選定・導入し、全学的に使いこなせる環境を整備することで、
 大学の価値は大きく向上します。



目次

- P002 できる人だけ？LMS導入後の問題点
- P003 実は難しいLMSの活用
- P004 LMSを活用することで期待できる環境
- P005 LMSの全学活用を実現するためのアプローチ
- P006 OSSと有償製品の違い
- P007 プラグインによるカスタマイズに対応！
Resonant LMS XP
- P008 十分な機能をシンプルに活用！Canvas LMS SaaS
- P009 LMSの価値は導入後のパフォーマンスで決まる

できる人だけ？LMS導入後の問題点

LMSは、すでに多くの大学で導入されています。

しかし、導入したはいいものの十分に機能を活かせず、

LMSを使える先生は使い、使えない先生は使えないまま

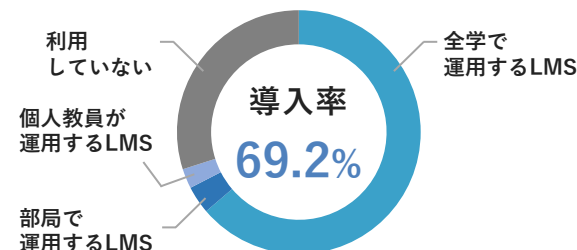
と言った大学も存在します。

右図参考：大学ICT推進協議会 ICT利活用調査部会

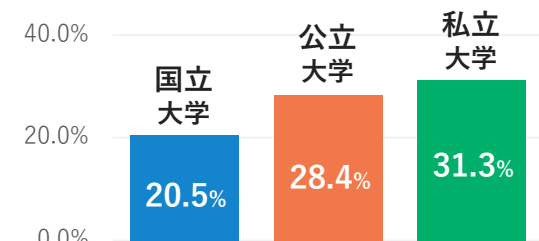
高等教育機関におけるICTの利活用に関する調査研究結果報告書(第2版)

https://axies.jp/_media/2020/07/2019_axies_ict_survey_v2.pdf

大学事務局(4年制大学)におけるLMS導入率



LMS提供科目数に対する利用科目数の割合



※ LMSの利用科目数 / 学内で提供している科目数 で算出

せっかく導入したシステムも、活用率が低ければそれだけ効果は薄くなってしまいます。多額のコストを投じて導入したLMSの活用率が低いことは、コストが無駄になるだけではありません。長期的な視点では、大学としての **競争力が低下** してしまう恐れがあります。

LMSが活用されないリスク



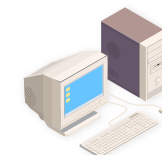
文書作成ソフトによる小テストでは
データが蓄積されない



先生の
生産性や講義の質が上がらない



学生へ知らせるべき情報を
一貫して通知できない



学生へ
提供する学習環境が古い

これから進学先を選ぶ学生はより良い学習環境が実現されている大学を選択するのではないのでしょうか。

実は難しいLMSの活用

LMSの活用状況は大学により様々ですが、全ての大学が十分に活用できているとは言えないのが現状です。

なぜ、LMSの活用が促進されないのでしょうか。

利用者がLMSの効果を認識し、適切な活用をするまでにはクリアしなければならないハードルが存在します。

LMSが活用されない理由

01 使う先生と使わない先生がいる

知識共有を十分に
行える環境ではない



活用するための
学習コストが高い



02 活用するハードルが高い

日常業務でどのように
活かせるのかわからない



機能があっても
使い方がわからない



03 活用する価値がわからない

LMSを使ったところ
でなにが変わる？



使わなくても講義は
問題なくできている



これらの課題に対し、対策を講じられないまま使い続けていないでしょうか。

LMSを活用することで期待できる環境

先生や学生がLMSの使い方を十分に理解し、活用することができれば大学全体に大きなメリットが生まれます。
適切なLMSの活用をすることで期待できるメリットの一例を紹介します。

LMSの活用をすることで期待できるメリット

学習環境の向上

学生一人一人の学習状況を管理し、
大学と学生双方が常に確認できるようになります。



教材や課題の
完了率



テストの結果



漏れの無いリアルタイムな通知

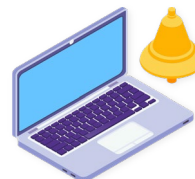
先生も学生も、
意識すべき場所をLMSに集約することができます。



休講、講義などの
スケジュール



講義ごとの
先生の情報



教材の蓄積・更新

教材の保存場所が集約され、
閲覧しやすく、更新しやすい教材管理ができます。



LMSを見れば
教材がある



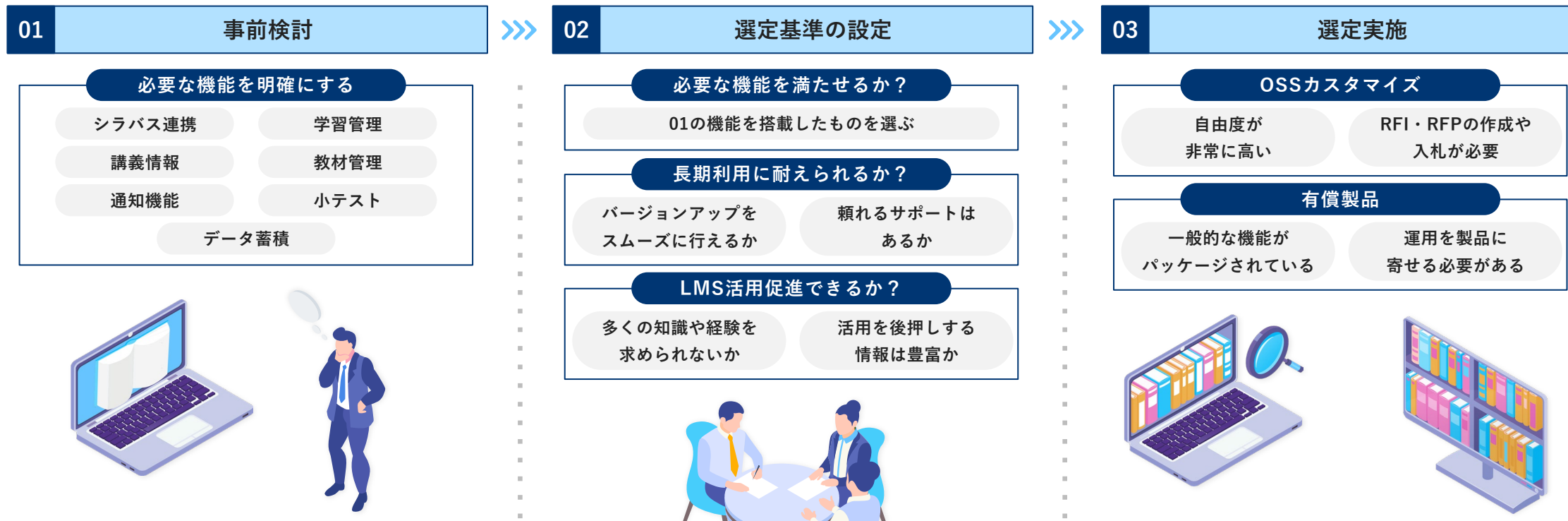
教材の変更は
LMSさえ
更新すればOK



LMSの全学導入・全学活用を実現することで、近代的な学習環境を学生に提供する土台となります。

LMSの全学活用を実現するためのアプローチ

理想的なLMSの利活用を実現するためには、新規導入やリプレースのタイミングからポイントを押さえることが大切です。



LMSの導入時は、実現したい機能と共に **有効活用できるか？** という視点を持つことが極めて重要です。

POINT >

現在利用しているLMSの活用率が低いのであれば、その点をいかに解決するのかを入念に精査・検討する必要があります。

OSS製品と有償製品の違いを明確にし、**大学にマッチしたLMSを選定**しましょう。

OSSと有償製品の違い

OSSをカスタマイズをした場合と有償製品ではどのような差が生まれるのでしょうか。パナソニック デジタル株式会社（以下、パナソニック デジタル）では、**現代のニーズに合わせた2種類のLMS製品**をご提供しています。OSSカスタマイズ、Resonant LMS XP、Canvas LMS SaaSをそれぞれ比較します。

比較項目	OSSカスタマイズ	Resonant LMS XP	Canvas LMS SaaS
動作環境	オンプレミス	クラウド/オンプレミス	クラウド
環境構築難易度	詳細な仕様書が必要 事業者との調整や構築作業が必要 △	パナソニック デジタル(Resonant社)が 実施 ○	SaaSのため構築自体が不要 ◎
活用難易度	カスタマイズされた環境知識が必須 △	マニュアル完備、運用実績多数 ◎	マニュアル完備、運用実績多数 ◎
カスタマイズ性	柔軟なカスタマイズが可能 ◎	プラグインによるカスタマイズ ○	カスタマイズ不可 △
要件への適合性	ほとんどの要件に対応可能 ◎	一般的な機能はパッケージング済み プラグインにより要件に対応 ◎	一般的な機能はパッケージング済み ○
容量	用意したストレージに依存 ○	1TB以上はオプション △	無制限 ◎
サポート	なし、または個別のサポート契約 △	24/365サポート、日本語フォーラム ◎	メーカーサポート ○
バージョンアップ	カスタマイズ内容により困難となる △	バージョンアップ対応 ○	利用者側の作業不要 ◎



Resonant LMS XPの詳細は7ページへ！



Canvas LMS SaaSの詳細は8ページへ！

プラグインによるカスタマイズに対応！ Resonant LMS XP

Resonant LMS XPは、大学で必要とされる機能をパッケージングし、これまで数多くの大学に導入実績のあるLMS製品です。OSSであるMoodleをベースとしたカスタマイズ製品であり、各大学のニーズや運用課題の多くを製品に反映しています。

Resonant LMS XPの特長

データの蓄積

学生一人ひとりの学修の過程や成果をデータとして蓄積し、「学びの振り返り」「最適な学修支援」「教え方の見直し」などが可能です。



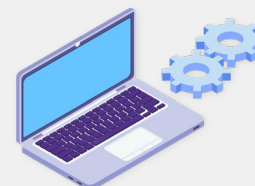
オンプレ/クラウド両対応

ご要望に応じて、クラウド環境とオンプレミス環境どちらでも構築可能です。大学様それぞれの要望に応じた環境で稼働します。構築はパナソニック デジタル（レゾナント・ソリューションズ社）が実施するため、安心して運用に臨むことができます。



カスタマイズ

Moodleの標準機能をさらに使いやすく改良済みです。様々なニーズに応えるために、プラグインによるカスタマイズにも対応しています。LMSのバージョンアップ時には事前にプラグインの動作検証を行い、不具合のリスクを削減します。



バーチャル授業 ※オプション

急速に普及するリモート授業を、仮想的な3D空間で実現できます。工夫次第でビデオ配信を超えるクオリティを実現できるのではないのでしょうか。



導入や運用に不安があっても、基本機能に加えて独自要件も実現したい大学におすすめ！

十分な機能をシンプルに活用！Canvas LMS SaaS

Canvas LMS SaaSは、多機能なLMSをSaaSとして提供することで**使いやすさに特化したLMS製品**です。
Canvas LMSオープンソース版をベースにカスタマイズした製品であり、**世界で6,000組織が活用**しています。

Canvas LMS SaaSの特長

容量無制限

通常、LMS製品は扱うデータ量に応じてストレージ容量を拡張しなければなりません。

Canvas LMS SaaSは無制限のストレージを提供しており、容量を気にすることなくデータを保存できます。



構築不要

SaaSで提供されるため、システムはすでにクラウド上で稼働しています。

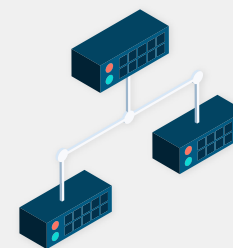
LMSの構築はコストだけでなく、構築中の人的リソースが必須ですが、それらがまとめて不要となります。



テナント運用

同系列の大学・高校・中学や、大学内の学部・学科をテナントで分けて運用することができます。

ベースのポリシーは統一しつつ、テナント毎に個別の運用をすることで効率的で無駄のないLMS活用が実現されます。



お客様は機能を使うだけ

メンテナンスやバージョンアップなど、システムを稼働させるためには様々な保守管理作業が必須です。

Canvas LMS SaaSは、クラウド上の管理業務は全てサービス提供元で実施します。利用者は必要な機能を利用し、大学にとって重要な業務に注力することが可能です。



特殊な要件が少なく、使いやすいLMS製品で活用率の向上を力強く推進したい大学におすすめ！

LMSの価値は導入後のパフォーマンスで決まる

LMSの導入時、「求めている機能を実現できるのか？」という観点は非常に重要であり、最優先の選定基準でもあります。しかし、**要望通りの機能が実現できることと、実際に活用して理想的な効果を生み出すことは別問題**です。LMSを最大限活用するためには、使いやすいシステムや分かりやすい効果が土台として必要と言えます。

システムの使いやすさ

効果の分かりやすさ



全学で活用されるLMS

パナソニック デジタルは、これまで多くの大学様と対話し、実際の現場を見てきました。そこで培ったナレッジやノウハウは、「Resonant LMS XP」と「Canvas LMS SaaS」の機能や使いやすさにも活かされています。教育現場の最前線で活用されるLMSは、**導入してから真価を問われる製品**です。

活用されないLMSから脱却し、本当に価値を生み出すLMSをぜひご検討ください。

お問い合わせはこちらから



ご連絡先

パナソニック デジタル株式会社

大阪本社

TEL/06-6906-2801 住所/〒530-0053 大阪市北区末広町2番40号

東京本社

TEL/03-5148-5634 住所/〒104-0061 東京都中央区銀座8丁目21番1号

Panasonic